



～ OECDが「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」として 北九州市を選定！ アジア地域で初 ～

OECD（経済協力開発機構）は、このたび、SDGs推進に向けた世界のモデル都市として、アジア地域で初めて、本市を選定しました。

OECDは、既に選定した6都市・地域を含めて世界から10～12程度のモデル都市を選定し、それらモデル都市を対象として調査・分析・評価を行い、都市・地域レベルの取組みを世界中に広げていくためのプロジェクトを実施することとしています。

この選定を受けて、本市及びOECDによる共同記者会見を下記のとおり開催いたします。

記

1 OECD「SDGs推進に向けた地域的アプローチ」プロジェクト

(1) プロジェクト概要

- ・本プロジェクトは、SDGsに積極的に取り組む10～12程度のモデル都市を世界から選定し、15～18か月間をかけて、調査・分析・評価を行うもの。
- ・プロジェクトでは、「都市・地域レベルの国際比較が可能となる指標づくり」「調査・分析を通じた各都市・地域への評価・政策提言」「優良事例の抽出」「モデル都市間の知識共有」「ハイレベルの政策対話」などが実施される。
- ・その結果は報告書としてまとめられ、国際会議等を通じて世界中に発信され、世界の都市・地域の取組みを促進していく。

(2) 世界で選定されたモデル都市（平成30年4月現在 6都市・地域）

北九州市（日本）、ボン市（ドイツ）、トスカーナ州（イタリア）、フリウーヴェネツィア・ジュリア州（イタリア）、南デンマーク地方（デンマーク）、コルドバ州（アルゼンチン）

(3) 本市への調査

- ・今後、OECD調査団が来北し現地調査を実施。
- ・調査・分析を通じ、再生可能エネルギーや環境国際協力といった本市の強みを適切に評価いただくことで、「世界のSDGsモデル都市」として国内外に発信していく。

2 共同記者会見概要

(1) 日時 平成30年4月23日（月）13：50～14：20

(2) 場所 北九州市役所4階 記者会見室

(3) 次第

- ・市長説明 北九州市長 北橋健治
- ・OECD説明 OECD東京センター所長 村上由美子
- ・記念撮影
- ・質疑応答

<プロジェクトの背景>

- ・国連機関の調査によれば、都市や地域の適切な関わりがなければ、SDGsの169のターゲットの65%は達成できないと推定されている。
- ・このことから、OECDは、SDGsの実現には国レベルだけでなく、都市・地域レベルの取組みが不可欠と認識し、都市・地域レベルの取組みを支援するためのプロジェクトを実施することとした。

<プロジェクトの成果>

①都市・地域レベルの国際比較が可能となる指標づくり

- ・SDGsの推進は都市・地域における取組みが不可欠である一方、SDGsの指標は国単位での平均にとどまっているため、都市・地域レベルの国際比較が可能となる指標づくりを行う。
- ・各モデル都市のSDGsに関する強みなどの分析・評価が可能となる。
- ・この指標は、将来的に世界の他都市・地域でも使用できるものとなる。

②統合報告書（150ページ）

- ・全てのモデル都市を網羅した報告書。
- ・モデル都市間の比較、モデル都市の優良事例、などが盛り込まれる。

③ケーススタディレポート（30～40ページ）

- ・選定都市ごとに作成される報告書。
- ・各モデル都市の特徴に応じたSDGs指標、モデル都市の評価・政策提言・アクションプラン、などが盛り込まれる。

④モデル都市間の知識共有、ハイレベルの政策対話などの開催

<SDGsとは>

- ・SDGs (Sustainable Development Goals) とは、限りある地球の資源を、世界中の人々が公平に利用し、未来の世代に残していく、そのための目標。
- ・SDGsは、世界の共通言語。
- ・2015年、国連の全加盟国が合意。
- ・2030年までに達成する17の目標、169のターゲット、232の指標を掲げる。

